

生徒自身の ICT 活用の意欲を高める

「協働学習支援ツール活用研修」

D:児童生徒の ICT 活用力向上

このような生徒の姿が生まれました!

- 協働学習支援ツールを使い、自分の考えを書き込み、様々な機能に触れることができました。
- 「今後の授業の中で活用し、仲間と交流をしていきたい。」と意欲を高めることができました。

ICT 活用推進担当による協働学習支援ツールの使い方の説明

授業委員長からの「授業の交流の場でタブレットを有効活用したい。」という願いを受け、ICT 活用推進担当が、生徒を対象に協働学習支援ツールの研修を行い、「授業で使ってみよう」という意識を高める。

- ・実際に使ってみることで、協働学習支援ツールの機能（できること、できないこと、授業で活用できそうなこと）について理解する。
- ・協働学習支援ツールを活用し、仲間との交流を体験する。

教員の指導のポイント

- 実際に使ってみることで、お互いに試し、聞き合うことで協働学習支援ツールに慣れることを重視する。
- 生徒の思いを受け、協働学習で活用できそうな事例を紹介し、意欲を高める。



「協働学習支援ツール研修」を終えての感想



実際に協働学習支援ツールの機能に触れることで、自分の考えを書き込んだり、仲間と意見を交流したりすることを体験するなど、前向きに取り組む姿が印象的でした。

教員の指導のポイント

- 単元、単位時間のどの場面で ICT 機器を活用するのかを吟味し、積極的に授業で活用していく。
- ICT 機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの具現を目指す。

授業を受けての感想

- ・協働学習支援ツールは教員と生徒、学級みんなで交流することができるので、より授業が活発になる。
- ・この授業を受けて、コロナ禍の中、仲間との交流が制限されてもタブレットを活用することで、授業を活発にできることが分かった。

今後に活かしていくこと

- ・臨時休業になった場合、学校と家庭をつないでオンライン授業ができるとより便利に使うことができる。
- ・授業だけではなく、朝の会や帰りの会、特別活動の中で利用していく。
- ・使っている中で出てきた問題点（機能面、モラル面）をもとに学級で話し合っルールを設定していく。